

2020年（令和二年） 11月13日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

10/29~11/4のNYMEX・WTI先物市場は、35.79~39.15ドルの範囲で推移した。

11月5日は、米大統領選挙の開票をめぐる先行き不透明感、感染再拡大による欧州委員会の2021年のユーロ圏GDP成長率の下方修正を受けて、4営業日ぶりに反落した。ただ、OPECプラスによる2021年の減産幅拡大の動きが下支え要因となった。12月限終値は前日比0.36ドル安の38.79ドル。

週末6日は、欧米の感染再拡大に対する警戒感、米大統領選の先行き不透明感、米上下両院選における民主党と共和党のねじれに対する不安感から、続落した。なお、ベーカーヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は前週末比5基増の226基と7週連続の増加となった。12月限の終値は前日比1.65ドル安の37.14ドル。

週明け9日は、米製薬大手ファイザーが新型コロナワクチンの臨床試験における有効性を発表、また、7日にはようやくバイデン候補に当選確実が付いたこと、さらに、サウジのアブドラジズ・エネルギー相が需給均衡のための減産調整を示唆したことから、大幅反発、節目の40ドル台を回復した。ただ、バイデン氏の外交政策で、イラン・ベネズエラに対する経済制裁緩和による増産懸念も浮上している。12月限終値は前週末比3.15ドル高の40.29ドル。

10日も、引き続き、ファイザーの新型コロナワクチンによる世界景気回復、OPECプラスの現行減産幅770万b/dの来年1月以降の維持への期待感から、続伸した。12月限の終値は前日比1.07ドル高の41.36ドル。

11日は、最近の新型コロナワクチン開発、大統領選挙の早期決着、追加経済対策の検討など、先行き経済回復への期待感、また、OPECプラスによる来年以降の減産継続への期待感を反映し、小幅続伸した。なお、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報は、退役軍人の日のため、翌12日の発表。12月限の終値は前日比0.09ドル高の41.45ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（12月渡し）は10月29日~11月4日の間36.40~40.30ドルの範囲で推移した。11月5日40.00ドル、6日39.50ドル、9日40.30ドル、10日41.60ドル、11日43.80ドルと推移した。

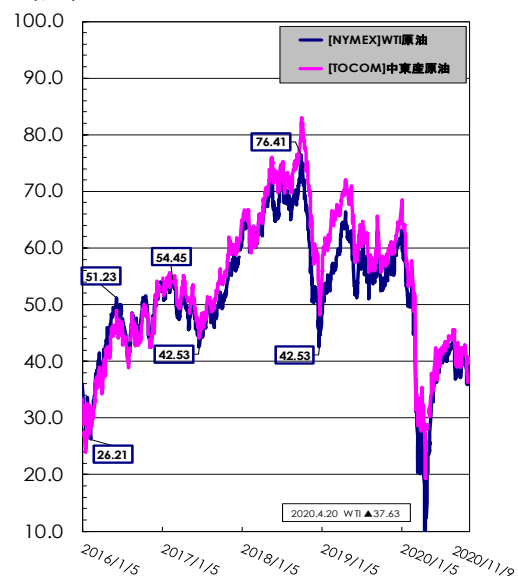
為替は10月29日~11月4日の間104.40~104.76円の範囲で推移した。11月5日104.29円、6日103.70円、9日103.35円、10日105.21円、11日105.15ドルで推移した。

財務省が11月9日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、10月中旬の原油輸入平均CIF価格は、29,268円/klで、前旬比979円安、ドル建て44.05ドルで前旬比1.59ドル安、為替レートは1ドル/105.62円。

そのような中で、11月9日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.6円の値下がり、軽油は同0.5円の値下がり、灯油は11円の値下がり（18%ベース）だった。ガソリンは8週連続の値下がり、軽油は3週連続の値下がりとなり、灯油は5週連続の値下がりだった。この週（11月第2週）の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比1.0円の引き上げとなった。

| 原油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 |
|----|------------------------|-------------|----------------|-----------|
| 需給 | 原油処理量 (千kl) | 11/1 ~ 11/7 | 2,633 ▼ -10 | ▼ - |
| | トッパー稼働率 (%) | " | 68.4 ▼ -0.3 | ▼ - |
| | 原油在庫量 (千kl) | 11/7 | 12,414 ▼ -389 | ▲ - |
| 価格 | 中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl) | 11/9 | 40.40 ▲ 4.14 | ▼ -19.0 |
| | WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl) | 11/9 | 40.29 ▲ 3.48 | ▼ -16.6 |
| | 原油CIF単価 (\$/bbl) | 10月中旬 | 44.05 ▼ -1.59 | ▼ -21.04 |
| | ①原油CIF単価 (¥/kl) | " | 29,268 ▼ -979 | ▼ -14,866 |
| | ②ドル換算レート (¥/\$) | " | 105.62 ▼ -0.25 | ▲ 2.18 |
| | 外国為替TTSレート (¥/\$) | 11/9 | 104.35 ▲ 1.41 | ▲ 5.81 |

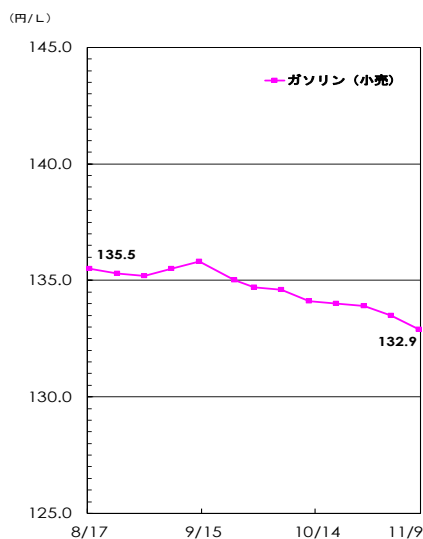
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

| ガソリン | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|------|----------------------------|-------------|--------------|------------|---------|
| 需給 | 生産 | 11/1 ~ 11/7 | 847 ▲ 16 | ▼ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 792 ▲ 48 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 29 ▲ 19 | ▼ - | |
| | 在庫 | 11/7 | 1,936 ▲ 25 | ▲ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 11/3 ~ 11/9 | 40.8 ▼ -1.5 | ▼ -17.6 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 11/3 ~ 11/9 | 37.8 ▲ 0.5 | ▼ -16.8 |
| | | (TOCOM/中部) | 11/9 | 40.7 ▲ 1.5 | ▼ -15.3 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 11/9 | 132.9 ▼ -0.6 | ▼ -13.9 | |

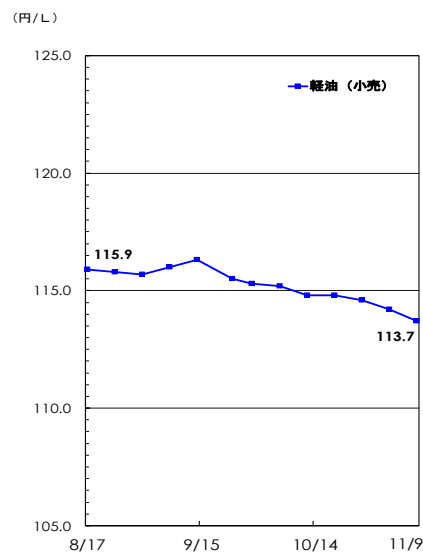
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

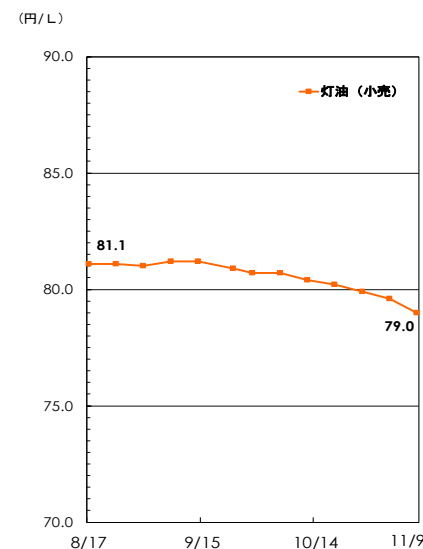
| 軽油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|----|----------------------------|-------------|--------------|------------|---------|
| 需給 | 生産 | 11/1 ~ 11/7 | 588 ▼ -5 | ▼ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 596 ▲ 91 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 0 ▼ -53 | ▼ - | |
| | 在庫 | 11/7 | 1,608 ▼ -8 | ▲ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 11/3 ~ 11/9 | 43.0 ▼ -1.7 | ▼ -17.9 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 11/3 ~ 11/9 | 46.2 ▲ 1.0 | ▼ -17.1 |
| | | (TOCOM/中部) | 11/9 | - | - |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 11/9 | 113.7 ▼ -0.5 | ▼ -13.7 | |

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

| 灯油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|----|----------------------------|-------------|-------------|------------|---------|
| 需給 | 生産 | 11/1 ~ 11/7 | 286 ▲ 29 | ▲ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 247 ▲ 77 | ▲ - | |
| | 輸出 | " | 25 ▼ -57 | ▲ - | |
| | 在庫 | 11/7 | 2,911 ▲ 14 | ▲ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 11/3 ~ 11/9 | 42.8 ▼ -1.7 | ▼ -17.8 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 11/3 ~ 11/9 | 40.9 ▲ 0.4 | ▼ -18.1 |
| | | (TOCOM/中部) | 11/9 | 42.7 ▲ 1.2 | ▼ -18.8 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 11/9 | 79.0 ▼ -0.6 | ▼ -12.7 | |



■ 関連情報

1 海外/原油

11月11日のNYMEXのWTI先物原油は小幅続伸した。このところの新型コロナワクチン開発、大統領選挙の早期決着、追加経済対策の実施など、先行き経済回復への期待感、また、OPECプラスによる来年以降の減産継続への期待感を反映した模様である。なお、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報は、退役軍人の日のため、翌12日の発表、民間調査である米国石油協会(API)の在庫統計では、原油は前週比510万バレル減と市場予測(90万バレル減)を上回る取り崩しであった。12月限の終値は前日比0.09ドル高の41.45ドル、1月限の終値は同0.07ドル高の

41.74ドル。

EIAによると、11月9日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.6セント値下がりの1ガロン2.096ドル(57.7円/ℓ)、ディーゼルは同1.1セント値上がりの2.383ドル(65.6円/ℓ)となった。ガソリンは5週連続の値下がり、ディーゼルは4週ぶりの値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年11月1日～11月7日に休止したトッパー能力は47.2万バレル/日で、前週に対して14.7万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は263.3万klと、前週に比べ1.0万kl減少。前年に対しては67.4万klの減少。トッパー稼働率は68.4%と前週に対して0.3ポイントの減少、前年に対しては16.0ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.9%増、ジェット/11.7%減、灯油/11.3%増、軽油/0.9%減、A重油/7.0%増、C重油/14.6%増。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は0.0万kl(前週比5.3万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でC重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、軽油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は79.2万kl(対前週6.5%増)と2週振りで増加した。ジェット6.4万kl(対前週11.8%増)、灯油24.7万kl(対前週45.1%増)、軽油59.6万kl(対前週18.1%増)、A重油22.1万kl(対前週7.9%増)、C重油15.5万kl(対前週18.0%減)。

(単位:千KL)

| | 今週 (11/1 ~ 11/7) | 前週 (10/25 ~ 10/31) | 前週比 | |
|--------|---------------------|-----------------------|-------|--------|
| ガソリン | 792 | 744 | ▲ 48 | (6%) |
| ジェット燃料 | 64 | 57 | ▲ 7 | (12%) |
| 灯油 | 247 | 170 | ▲ 77 | (45%) |
| 軽油 | 596 | 505 | ▲ 91 | (18%) |
| A重油 | 221 | 205 | ▲ 16 | (8%) |
| C重油 | 155 | 189 | ▼ -34 | (-18%) |
| 合計 | 2,075 | 1,870 | ▲ 205 | (11%) |

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月7日時点の在庫は、ガソリン、灯油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

前年に対してはジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは193.6万kl、前週差2.5万kl増。前年に対しては39.0万kl多い。

灯油は291.1万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては6.1万kl多い。

軽油は160.8万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては20.7万kl多い。

A重油は77.3万kl、前週差0.6万kl減。前年に対しては3.4万kl多い。

C重油は184.9万kl、前週差6.3万kl増。前年に対しては16.8万kl少ない。

(単位:千KL)

| | 今週 (11/7) | 前週 (10/31) | 前週比 | |
|--------|--------------|---------------|-------|--------|
| ガソリン | 1,936 | 1,911 | ▲ 25 | (1%) |
| ジェット燃料 | 859 | 869 | ▼ -10 | (-1%) |
| 灯油 | 2,911 | 2,897 | ▲ 14 | (0%) |
| 軽油 | 1,608 | 1,616 | ▼ -8 | (-0%) |
| A重油 | 773 | 779 | ▼ -6 | (-1%) |
| C重油 | 1,849 | 1,786 | ▲ 63 | (4%) |
| 合計 | 9,936 | 9,858 | ▲ 78 | (0.8%) |

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月3日～11月9日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートはわずかに円高で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社1.0円の引き上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月3日～9日の製品スポット市況は、10月27日～11月2日平均と比べ、陸上と海上と取引で値下がり、先物取引で値上がりした。

直近(11/3～11/9)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(10/27～11/2)比で、ガソリンは1.5円の値下がり、灯油は1.7円の値下がり、軽油は1.7円の値下がりだった。直近(11/3～11/9)において、ガソリンは94円台でわずかに値下がり、灯油は42円台でわずかに値上がり、軽油は42～43円台でわずかに値下がりて推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(11/3～11/9)に、前週比で、ガソリンは1.2円の値下がり、灯油は0.9円の値下がり、軽油は1.8円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間(11/3～11/9)に、ガソリンは95～96円台で値下がり、灯油は41～42円台で値上がり、軽油は44～45円台で値下がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油も1.0円の値上がりだった。先物価格は、同期間(11/3～11/9)に、ガソリン91～92円台で値下がり、灯油40～41円台で値下がり、軽油45～46円台で値下がり後やや回復して推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

| [陸上ローリー 4地区平均] | 今週 (11/3～11/9) | 前週 (10/27～11/2) | 前週比 |
|-------------------|----------------|-----------------|--------|
| | レギュラー | 40.8 | 42.3 |
| 灯油 | 42.8 | 44.5 | ▼ -1.7 |
| 軽油 | 43.0 | 44.7 | ▼ -1.7 |

(TOCOM) (単位: 円/%)

| [期近物/終値] [平均] | 今週 (11/3～11/9) | 前週 (10/27～11/2) | 前週比 |
|------------------|----------------|-----------------|-------|
| | レギュラー | 37.8 | 37.3 |
| 灯油 | 40.9 | 40.5 | ▲ 0.4 |
| 軽油 | 46.2 | 45.2 | ▲ 1.0 |

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/3～11/9実績値) (単位: 円/%)

| 油種 | 現物 | 先物 | 平均 |
|------|--------|-------|--------|
| ガソリン | ▼ -1.5 | ▲ 0.5 | ▼ -0.5 |
| 灯油 | ▼ -1.7 | ▲ 0.4 | ▼ -0.6 |
| 軽油 | ▼ -1.7 | ▲ 1.0 | ▼ -0.4 |
| A重油 | ▼ -1.9 | | |

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月9日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円安の132.9円、軽油は同0.5円安の113.7円、灯油は18%ベースで同11円安の1,422円(1%ベースでは79.0円で同0.6円安)。ガソリンは8週連続の値下がり、軽油は3週連続の値下がり、灯油は5週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは5都県、横ばいは2県、値下がりが40道府県となった。全国最安値は125.8円の宮城県(前週比1.3円安)、その次に安かったのは126.5円の滋賀県(前週比0.1円高)、最高値は143.1円の大分県(同0.5円安)だった。最も値上がりしたのは、同0.8円高

の沖縄県(140.6円)、横ばいは石川県・香川県、最も値下がりしたのは、同2.6円安の高知県(139.5円)だった。

今週(11月3日～11月9日)は、指標原油価格は値上がりし、為替レートはわずかに円高で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週(11月12日～11月18日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の引き上げとなった。次回調査時(11月16日)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(単位: 円/%)

| (資工庁公表) [週動向] | 今週 (11/9) | 前週 (11/2) | 前週比 | 直近高値 |
|------------------|-----------|-----------|--------|---------------|
| レギュラー | 132.9 | 133.5 | ▼ -0.6 | 08/8/4 185.1 |
| 灯油 | 79.0 | 79.6 | ▼ -0.6 | 08/8/11 132.1 |
| 軽油 | 113.7 | 114.2 | ▼ -0.5 | 08/8/4 167.4 |

小売価格

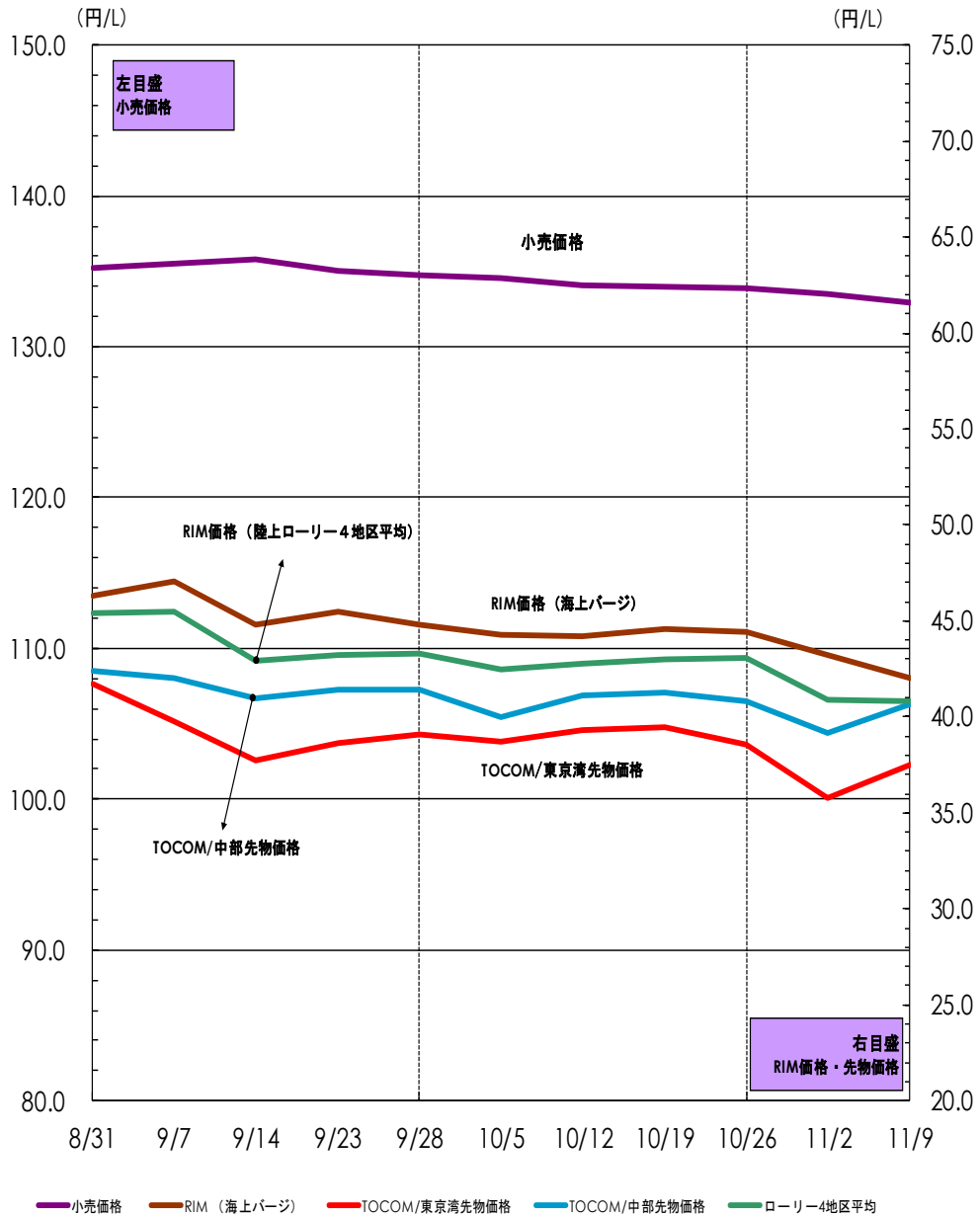
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/8/31 ~ 2020/11/9)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第20号)の公表は、11/20(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。